

日本のマーケットでは型番が付けられているが、本国ではハイドンとかモーツァルトというように、製音品を作曲家名で呼んできたウィーン・アコースティクスは、このたび最高機種シリーズには画家のグスタフ・クリムトの名を冠してきた。社名からしてウィーンの名があり、ウィーン分離派の絵画の巨匠から命名したシリーズ名である。1989年の創業以来、同社が彼の地で操業し音創りをしていることに、いかに誇りを持っているかということの表明である。

平面型同軸ユニットを採用

クリムト・シリーズの最上級機、ザ・ミュージックは、すでに昨08年中にドイツ、イタリア、フランス、アメリカで紹介されているが、このたび日本に上陸してきた。試聴のその日、わたしは初めて実物に出会った。同社は大口径ウーファーを使わないので、エンクロージャの幅は必要十分に狭く、幅の2倍を超える奥行きの深さで内容積を稼いでいる。北イタリアの専門工場で生産されるエンクロージャは、堅牢で緻密な造り、突き板仕上げ部分もピアノ塗装の部分も溜息ものに美しい。

VIENNA ACOUSTICS The Music



ウィーン・アコースティクス

The Music ¥2,400,000 (ペア)

●型式:4ウェイ5スピーカー・バスレフ型 ●使用ユニット:ウーファー・22.8cmコーン型×3、ミッドバス/ミッドハイ・17.8cm平面型/2.5cmドーム型同軸、トウィーター・1.3cmドーム型 ●クロスオーバー周波数:120Hz、2.4kHz、15kHz ●感度:91dB/2.83V/m ●インピーダンス:4Ω ●寸法/重量:W273×H1,295×D630mm/82kg ●備考:写真の仕上げはサベレ、他にピアノブラック仕上げあり ●問合せ先:CEC株国内営業部 ☎050(5509)0795

COMPONENTS



2ピース構成のエンクロージャを採用したThe Musicの上部モジュール。搭載する同軸ユニットは18cm平面振動板とシルクドームトウイーターを組み合わせたもの。平面振動板には、TPX(メチルペンテンポリマー)にグラスファイバーを混入した素材を採用する。裏面には補強のためのリブが放射状に配されており、磁気回路にはネオジウムマグネットを搭載。半球圧電セラミックス振動板を用いるムラタ製スーパートウイーターは、下部モジュールに収納。



上部モジュールの背面を見る。水平方向に対する角度調整のほか、リアパツフル側を持ち上げることで、伏角を設けることが可能である。それぞれに細かい目盛がふられている。

搭載した5本のユニットのうち最上部に位置するのは2ウェイのコアキシャルユニットなので、4ウェイ構成の大型スピーカーである、同社では91年にコアキシャルユニットを1本搭載したシステムを製品化したことがある。

その時の反省点は、コーンの中心部にトウイーターがあるためコーンの凹みの共鳴音がつきまとうことであった。今回ザ・ミュージックに搭載した18センチ口径のコアキシャルユニットは、ご覧のようにコーンではなくフラットの振動板である。最初の試作機が03年に作られたフラット振動板は、その形状からスパイダーの名がある補強の形状や厚み、振動板の素材そのものなど

検討を重ね、5回金型を作り直して本番の製品が完成したという。ウーファリーのコーンが透明でスパイダー補強がよく見えるのに対して、コアキシャルユニットのフラット振動板が半透明なのは、物性をコントロールするためグラスファイバーを混入しているからだ。なお、ウーファリーのコーン、フラット振動板ともにウーインにある専門工場で成型加工され、これをドイツにある専門メーカー、イートン社へ送ってユニットが完成する。15kHzから受け持つので音そのもののためではなく音像定位の位置付けに効果があると同社で説明しているスーパートウイーターは、我が国のムラタ製である。

聴室での条件では音源が高く音が降ってくるので、座面の高い椅子に座り替えて聴いた。指向性のパターンと関連するのか、コアキシャルの向きの調整には敏感だ。本機は幸いなことに精密に角度調整できる機構がある。音のバランスを整え音像のフォーカスをとると、コアキシャルユニットの正面の軸はびたりと耳へ向くセッティングとなった。

ナチュラルで上質

ザ・ミュージックは、素晴らしい音のスピーカーである。わたしにとつていままです社は、ウーインの郊外にあるスピーカーのアッセンブルメーカーというちっぽけな印象でしかなかったのを反省している。その印象を今回おおきく改めなければならぬほど、ザ・ミュージックは偉大であり音のいいスピーカーである。アコースティック楽器がナチュラルで上質。オーケストラの楽器がどれも質感が高く、ハーモニーが艶やかで美しい。控えめの音量でも音が絶対に痩せないのは、ふつうの暮らしのなかで音楽を楽しむのには歓迎すべき必須特性であり、いざ音量を上げてもストレスなくトゥッテイが駆け上がる。大型スピーカーの余裕ある鳴りっぷりのよさが本機で堪能できる。23センチ口径3本の低音が効を奏したか、低音はともりズミカルであるから、ウーインというとクラシック音楽専用のイメージがあるが、そんなことなくジャズ／フュージョン／ブルース／ポップスもなんでも御座れ。

素晴らしいサウンドのフラグシップ機。
ハーモニーが艶やかで美しい
—— 傅 信 幸